

# 2023 年度事業計画概要

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

新材料及びこれに関連する科学技術分野における助成事業（**公益事業 1**）及び科学技術啓蒙事業（**公益事業 2**）を実施する。

## 公益事業 1

### 1. 研究助成

#### 1-1. 研究助成

新材料及びこれに関連する科学技術分野で、新規材料開発の基礎並びに応用を指向する独創性の高い研究を対象とし、大学等に常勤する 45 才未満の研究者に対して研究助成を行う。

##### (1) 2023 年度（第 35 回）研究助成の実施

2023 年 3 月の第 79 回（公益認定後第 32 回）理事会で承認・決定した 15 名に助成金を贈呈する。助成額は 1 件あたり 2,000 千円、総額 30,000 千円。

##### (2) 2024 年度（第 36 回）研究助成の公募

公募期間は 2023 年 8 月 1 日から 9 月 22 日。選考委員による書類審査を経て、2023 年 11 月 30 日の選考委員会において候補者を選出する。

#### 1-2. スタートアップ助成

上記 1-1. 研究助成の対象者のうち、学位取得後 10 年以内及び現在のポジションに就いて 3 年以内の研究者に対して研究助成を行う。

##### (1) 2023 年度（第 3 回）スタートアップ助成の実施

2023 年 3 月の第 79 回（公益認定後第 32 回）理事会で承認・決定した 14 名に助成金を贈呈する。助成額は 1 件あたり 1,000 千円、総額 14,000 千円。

##### (2) 2024 年度（第 4 回）スタートアップ助成の公募

公募期間は 2023 年 8 月 1 日から 9 月 22 日。選考委員による書類審査を経て、2023 年 11 月 30 日の選考委員会において候補者を選出する。

#### 1-3. 発展研究助成

上記 1-1. 研究助成の直近の助成修了者を対象とし、当該研究助成の発展・展開が期待される研究者に対して研究助成を行う。

(1) 2023 年度（第 4 回）発展研究助成の実施

2023 年 3 月の第 79 回理事会（公益認定後第 32 回）で承認・決定した 3 名に助成金を贈呈する。助成額は 1 件 5,000 千円、総額 15,000 千円。

(2) 2024 年度（第 5 回）発展研究助成の選考

2022 年度研究助成の終了者（12 名）が対象。2023 年 11 月 30 日の選考委員会において候補者を選出し、2024 年 3 月の理事会で承認・決定する。

## 2. 国際交流助成

海外で開催される、新材料及びこれに関連する科学技術分野における国際会議への参加に対して費用の一部を助成する。

(1) 2023 年度（第 36 回）国際交流助成の実施

選考委員による審査選考にて選出し、2023 年 5 月の第 80 回理事会（公益認定後第 33 回）で承認・決定する 11 名に助成金を贈呈する。助成額は最高 250 千円、総額 2,550 千円。

(2) 2024 年度（第 37 回）国際交流助成の公募

公募期間は 2024 年 2 月 1 日から 3 月 22 日。選考委員による書類審査を経て候補者を選出する。

## 3. 国際シンポジウム助成

国内で開催される、新材料及びこれに関連する科学技術分野における国際シンポジウムに対して費用の一部を助成する。

(1) 2023 年度（第 34 回）国際シンポジウム助成の実施

2023 年 3 月の第 79 回（公益認定後第 32 回）理事会で承認・決定した 7 件について、助成金を贈呈する。助成額は 1 件 300 千円、総額 2,100 千円。

(2) 2024 年度（第 35 回）国際シンポジウム助成の公募

公募期間は 2023 年 8 月 1 日から 9 月 22 日。選考委員による書類審査を経て、2023 年 11 月 30 日の選考委員会において候補者を選出する。

## 4. 研究成果報告会

2023年11月30日～12月1日、(株)トクヤマ・徳山製造所において、2022年度の  
研究助成者、スタートアップ助成者および2021年度の発展研究助成者による第26  
回研究成果報告会を開催する。

## **公益事業 2**

### **科学技術啓蒙助成**

将来を担う世代を対象とした科学技術の普及啓蒙事業に対して助成する。

(1) おもしろワクワク化学の世界展

青少年を対象に(公社)日本化学会中国四国支部が主催する演示実験会「おもしろ  
ワクワク化学の世界展」に対して助成する。助成額は2,000千円。

(2) 少年少女発明クラブ

(一社)山口県発明協会等が支援する少年少女発明クラブに対して助成する。助  
成額は1クラブ50千円、7クラブ、総額350千円。

## 2023年度（第35回）研究助成

（15件、総額 30,000千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	研究題目	助成額 （千円）
1	今村和也	37	助教	高知大学 教育研究部総合科 学系 複合領域科学部門	無害な有機色素を使った光触媒の開発とパイ オマス変換への応用	2,000
2	大石雄基	34	助教	富山大学 学術研究部 薬学・ 和漢系	常温でリン光を発するロタキサン型色素の創 製	2,000
3	大洞光司	38	准教授	大阪大学 大学院工学研究科 応用化学専攻	不活性なC-H結合の変換を促進する人工金属酵 素の合理的設計	2,000
4	加藤匠	30	助教	奈良先端科学技術大学院大 学 先端科学技術研究科 物質 創成科学領域	高速応答が可能な有機無機ハイブリット型シ ンチレータの開発	2,000
5	河野慎一郎	44	講師	名古屋大学 理学部・理学研 究科 理学専攻	液晶性大環状化合物の内部空間を利用した多 孔性液晶の機能開拓に関する研究	2,000
6	河村暁文	42	准教授	関西大学 化学生命工学部 化 学・物質工学科	優れたはつ油性を示す双性イオン型ポリエス テルの創製	2,000
7	桑原泰隆	39	准教授	大阪大学 大学院工学研究科 マテリアル生産科学専攻	金属酸化物の酸素欠陥エンジニアリングに基 づく高活性CO <sub>2</sub> 水素化触媒の開発	2,000
8	田邊洋一	42	准教授	岡山理科大学 理学部 基礎理 学科	高性能3DグラフェンPN接合トランジスタの創 出	2,000
9	津留崎陽大	40	准教授	大阪公立大学 大学院理学研 究科 化学専攻	ホスファベンゾヘプタレン誘導体の合成と応 用	2,000
10	徳本有紀	41	講師	東京大学 生産技術研究所 物 質・環境系部門	二次元層状準結晶の合成と超伝導特性評価	2,000
11	福原学	43	准教授	東京工業大学 理学院 化学系	スマネン超分子ポリマーによる増幅計測	2,000
12	藤田貴啓	34	助教	東京大学 大学院工学系研究 科 物理工学専攻	非平衡ペロブスカイト型ルテニウム(III)酸化 物薄膜における磁性強相関トポロジカル物性 開拓	2,000
13	松岡真一	44	准教授	名古屋工業大学 大学院工学 研究科 工学専攻 生命・応 用化学系プログラム	配体重合と高分子反応による高活性・高選択 的な官能基化ポリオレフィンの合成	2,000
14	森啓二	42	准教授	東京農工大学 大学院工学研 究院 応用化学部門	スタックドアレーン構造の特異な電子効果の 利用を鍵とする有機触媒の創生	2,000
15	山科雅裕	34	助教	東京工業大学 理学院 化学系	自己相補性によるn共役系分子の環状集積と特 異光機能の創出	2,000

## 2023年度（第3回）スタートアップ助成

（14件、総額14,000千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	研究題目	助成額 （千円）
1	伊藤正人	28	助教	東京都立大学 都市環境学部 環境応用化学科	励起構造制御に基づく新規シングレット フィッション分子の開発と高効率化	1,000
2	小野寺桃子	29	特任助教	東京大学 生産技術研究所 基 礎系部門	遷移金属ダイカルコゲナイドのサブバンド間 遷移を利用したテラヘルツ発光素子の実現	1,000
3	加藤研一	30	助教	京都大学 大学院工学研究科 合成・生物化学専攻	立体n共役骨格の高分子化とその吸着性能評価	1,000
4	川合航右	29	次席研究員	早稲田大学 先進理工学部 電 気・情報生命工学科	ナノ空間エンジニアリングに基づくレドック スキャパシタ電極の創製	1,000
5	小林文也	30	助教	東京理科大学 理学部第一部 化学科	極性集積構造変換に基づいた協奏的機能創出 と多重制御	1,000
6	信田尚毅	34	助教	横浜国立大学 大学院工学研 究院 機能の創生部門	バイオマス由来原料を用いた高分子材料の合 成と分解	1,000
7	鈴木航	31	助教	兵庫県立大学 大学院工学研 究科 応用化学専攻	表面構造制御による金ナノクラスターの触媒 反応機構解明	1,000
8	関根良博	36	准教授	熊本大学 大学院先導機構 大 学院先導機構	動的電子状態に基づく極性金属錯体創出	1,000
9	千歳洋平	30	助教	九州大学 大学院工学研究院 応用化学部門	近赤外領域に高い2光子吸収能を有するTADF 分子の開発	1,000
10	成田秀樹	31	特定助教	京都大学 化学研究所 材料機 能化学研究系ナノスピント ロニクス	ハイブリッド超伝導体における新奇界面効果 の開拓	1,000
11	西村涼	29	助教	立教大学 理学部 化学科	光応答性有機分子結晶を用いたダイナミック 応力センサーの開発	1,000
12	檜垣達也	31	助教	京都大学 化学研究所 附属元 素科学国際研究センター	次世代磁性材料の開発を指向した多核金属ク ラスタ錯体の合成と物性評価	1,000
13	吉野隼矢	29	助教	東北大学 多元物質科学研究 所 工学部化学バイオ工学科	トップダウン的微粒子化による酸化鉄光触媒 の高性能化	1,000
14	脇坂聖憲	36	准教授	千歳科学技術大学 理工学部 応用化学生物学科	金属有機構造体をフレームワークとする3d金 属単イオンの量子磁性	1,000

## 2023年度（第4回） 発展研究助成

（3件、総額 15,000 千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	研究題目	助成額 （千円）
1	石井あゆみ	42	准教授	早稲田大学 先進理工学部	光エネルギー超高効率利用に向けたハイブリッド型アップコンバージョン材料の創成	5,000
2	鷹谷絢	46	准教授	東京工業大学 理学院 化学系	フラストレイテッドルイスペアを起点とする新しい有機反応化学・有機材料化学の開拓	5,000
3	渡邊貴一	36	研究准教授	岡山大学 学術研究院自然科学学域 応用化学専攻	クリック反応性イオン液体モノマーを基盤とした新規主鎖型高分子イオン液体材料の開発とその応用展開	5,000

# 2023年度（第36回）国際交流助成

（11件、総額2,550千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	会議名（機関・場所）	研究題目	助成額 （千円）
1	秋山みどり	33	助教	京都大学 大学院工学研究科	第23回国際フッ素化学学会 (2023/07/23-2023/07/28)、ケベック州ケベック[カナダ・東部]	全フッ素化キュバン：新しい電子受容体	250
2	大川采久	27	助教	東北大学 多元物質科学研究所	ICACC2024(2024/01/21-2024/01/26)、フロリダ州デイトナビーチ[アメリカ・東部]	Yb <sub>2</sub> Si <sub>2</sub> O <sub>7</sub> /SiC複合体の自己修復メカニズムおよび高温酸化挙動	250
3	岡田豪	39	准教授	金沢工業大学 工学研究科	第20回固体線量計測国際会議 (SSD20) (2023/09/17-2023/09/22)、ヴィアレージョ[イタリア]	Bi添加LiCaBO <sub>3</sub> のRPL特性評価 / Eu添加CaBPO <sub>5</sub> のRPL特性評価	250
4	鬼塚侑樹	31	助教	東北大学 多元物質科学研究所	第33回 光・電子・原子の衝突に関する国際会議 (ICPEAC)(2023/07/25-2023/08/01)、オンタリオ州オタワ[カナダ・東部]	原子運動量マッピングと分子の元素成分分析を同時に行う新しい分子分光法の開発	250
5	許勝	28	特任助教	東北大学 大学院工学研究科	第15回チタン世界会議 (Ti-2023) (2023/06/10-2023/06/17)、エジンバラ[イギリス]	Ti-Al基形状記憶合金における室温近傍での弾性熱量効果	250
6	谷洋介	36	助教	大阪大学 大学院理学研究科	第15回 機能性n電子系国際会議 (2023/06/17-2023/06/21)、ノースカロライナ州ローリー[アメリカ・東部]	高効率かつ高色純度な室温りん光を溶液中で示す金属フリー有機分子	250
7	陳君怡	40	特任助教	東京工業大学 科学技術創成研究院・未来産業技術研究所	2023年国際グリーン電気化学技術学会および台湾電気化学学会 (2023/10/26-2023/10/28)、台北[台湾]	Ti-Nb-Ta-Zr-Oナノチューブ可視光応答型光触媒の開発	150
8	長谷川拓哉	33	講師	東北大学 多元物質科学研究所	ISIEM 2023(2023/06/19-2023/06/23)、モンペリエ[フランス]	太陽光波長変換材に資するモリブデン酸ナノ近赤外光発光蛍光体の創成	250
9	引間和浩	32	助教	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科	ICMAT-2023(2023/06/26-2023/06/30)、Suntec Singapore [シンガポール]	アンチペロブスカイト型(Li <sub>2</sub> TM)SO電極活物質の合成と電気化学特性	150
10	牧之瀬佑旗	34	助教	島根大学 総合理工学部	8th ISHA学会(2023/09/10-2023/09/13)、バリエドリッド[スペイン]	酸化鉄ナノ粒子の水熱合成と機械学習を用いた単分散化条件の探索	250
11	松本倫実	31	特定研究員	京都大学 大学院工学研究科	マイクロタス2023 (?TAS 2023)(2023/10/15-2023/10/19)、カトヴィツェ[ポーランド]	PDMS製マイクロデバイスを用いた肝スフェロイド周囲の血管新生条件の検証	250

# 2023年度（第34回）国際シンポジウム助成

（7件、総額2,100千円）

No.	会議名称	開催期間・場所	主催団体名	組織/実行委員長	参加者（人）			助成額 （千円）
					国内	海外	合計	
1	第24回レーザ精密微細加工国際シンポジウム（LPM2023）	2023/06/13-06/16 弘前文化センター	一般社団法人レーザ加工学会	ジェネラルチェア（組織委員長） 産業技術総合研究所 研究部門長 新納弘之	150	100	250	300
2	IAMNano2023	2023/06/28-07/01 松山市 くにびきメッセ	IAMNano2023実行委員会	実行委員長 東京大学 教授 幾原雄一	70	26	96	300
3	京都大学エネルギー理工学研究所 第14回国際シンポジウム	2023/09/05-09/07 京都大学 宇治キャンパス	京都大学エネルギー理工学研究所	シンポジウム実行委員長 京都大学 教授 野平俊之	270	30	300	300
4	日本化学会東北支部80周年記念国際会議	2023/09/08-09/10 東北大学青葉山キャンパス	公益社団法人日本化学会東北支部	大会実行委員長 東北大学 教授 林雄二郎	870	30	900	300
5	第19回キラル分光国際会議	2023/09/17-09/21 広島市文化財団 JMS アステールプラザ	第19回キラル分光国際会議実行委員会	実行委員長 広島大学 准教授 松尾光一	120	180	300	300
6	第15回エコマテリアル国際会議	2023/11/26-11/30 吉岐の島ホール	エコマテリアルフォーラム	実行委員長 徳島大学 教授 長谷崎和洋	78	32	110	300
7	第13回プラズマ技術の基礎と応用に関するアジア太平洋国際シンポジウム/第16回先進プラズマ科学と窒化物及びナノ材料への応用に関する国際シンポジウム/第17回プラズマナノ科学技術国際会議	2024/03/03-03/07 名古屋大学	公益社団法人 応用物理学会	組織委員長 名古屋大学 教授 梅原徳次	200	300	500	300

（開催日順）



## 2023 年度 科学技術啓蒙助成

事業名称	おもしろワクワク化学の世界 '23 徳島化学展
助成額	2,000 千円
主催	公益社団法人 日本化学会中国四国支部
共催	公益財団法人 徳山科学技術振興財団
後援	徳島大学、鳴門教育大学、徳島県教育委員会、徳島市教育委員会、NHK 徳島放送局、四国放送、徳島新聞社、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、徳島化学工学懇話会
大会委員長	楯真一（広島大学大学院 教授、2023 年度日本化学会中国四国支部長）
実行委員長	森賀俊広（徳島大学大学院 教授）
実行委員	徳島大学（大学院社会産業理工学研究部理工学域）、鳴門教育大学（大学院学校教育研究科自然・生活系教育部）
開催期間	2023 年 8 月 26 日（土）～27 日（日）2 日間
場所	あわぎんホール大展示室（徳島市藍場町 2 丁目 14）
展示ブース	実験ブース数 約 20 程度
参加対象者	小学校児童、中学校生徒およびその保護者、一般
事業概要	化学に関するデモンストレーション（演示実験）、体験実験を通して、21 世紀を担う青少年に、化学や化学技術の重要性、面白さや不思議さを伝えることにより、夢を与えることを目的とする。本化学展により、青少年の素朴な疑問や好奇心を感動につなげる機会を提供するとともに、参加者の化学や化学技術に対する認識も刷新したい。
事業名称	少年少女発明クラブ
助成額	1 クラブ 50 千円（7 クラブ合計 350 千円）
主催	（一社）山口県発明協会、山口県内市町村教育委員会
共催	山口県内市町村、同公共施設、同商工会議所 他
運営組織	各クラブの企画運営委員会
活動期間	2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日（1 年間）
場所	山口県内公共施設
参加対象者	小中学生及びその保護者
事業概要	本クラブは、現在全国に 214 のクラブがあり、約 11,000 名の子どもたちが、約 2,800 名の指導員のもと科学的な原理に基づく工作実習、創作活動等の体験学習を行っている。山口県では現在 7 クラブ（下関市、山口市、宇部市、防府市、周南市、柳井市、田布施町）が活動している。本活動は、子どもたちに地域の特徴を生かした創意工夫に基づく創作活動の場を提供し、作品製作や実験を通じて、アイデアを形にする能力と技術を持った創造性豊かな人間形成に寄与することを目的として活動し、有意義な成果が得られている。